あつし塾長の

子のやる気 親の気づき

○○55

第3章・ゆとり教育世代の見えない学力

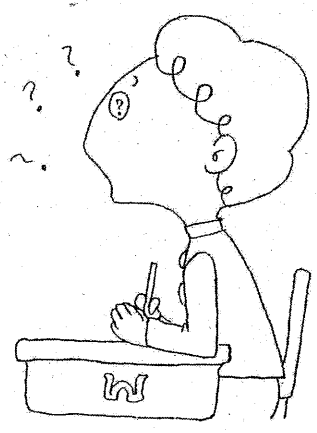
子の常識

子どもの文化を知ろう

新学期が始まり中学校では部活動が本格的に行われています。大震災の影響で、春に予定していた修学旅行が延期となる学校が多いようです。今年の受験生は6月に部活を引退しても体育祭、文化祭、修学旅行と大きな行事が受験期に集中するかもしれません。

例年青森県では5月の連休を過ぎると、中間テスト、そして6月に県教委から「高校体験入学」の実施予定が発表になります。先日、教室で高校受験の一年の流れを話しながら「どこの体験入学を申し込む?」と聞いてみました。中3に進級したばかりの子どもたちは一様に驚いた表情で「受験って、まだまだ先では…」と。この体験入学は、日程が可能であれば何校でも申し込みが可能です。だから私は「来春受験するかもしれない高校は全て体験しておいて、徐々に志望校を絞り込もう」と話しました。それでも子どもたちは困った表情のままでした。

「では、将来どんな仕事に就きたい?」と聞いてみました。反応はありません。私は、世の中にはたくさんの仕事があり、中でも危険（Kiken）、汚い（Kitanai）、きつい（Kitsui）仕事を、頭文字をとって〝3K〟と呼んでいると教えました。私たち



by yoriko

周りと接して広がる視野

の生活は過酷な労働に従事する方々がいて成り立っているのが現実です。黒板に〝3K〟と書いて「さて危険な仕事とは?」と聞いてみました。子どもたちは「消防、自衛隊、船、飛行機…」と元気に答えを挙げました。「では汚い仕事は?」。真っ先に手を挙げた女子は「泥棒」と。次の男子は「詐欺」と。私は拍子抜けしましたが、めげずに「きついのは?」と聞いてみました。するとバスケ部の女子が「基本!」と。確かに部活の基本練習は〝きつい〟でしょう。次の子は「帰れないとか給料が安いとか…ですか」と。どうも私のもくろみ通りには、授業が展開しませんでした。

私は最後に「天は人の上に人を造らず人の下に…」と少々話してみました。ほとんどの子が、この言葉は福沢諭吉の「学問のすゝめ」ですと答えることができました。「職業に貴賤はない。ただ世の中を見渡せば、難しい仕事と易しい仕事があり、概して頭脳労働は難しい仕事、肉体労働は易しい仕事だ。しかし、実は難しいか易しいかは、頭脳か肉体かではなく、仕事で心を遣うかどうかだと福沢諭吉は言っています。さて皆さんは将来どちらの仕事で活躍したいですか」と話し、授業を締めくくりました。

受講後に「心を遣う仕事に就きたい」と9割以上の生徒が感想を書いていました。「いい話でした。だから福沢諭吉は1万円札になったんですね」というコメントも。子の常識は親の非常識。世代の違いは文化の違いです。子育て・教育は異文化交流のような感じで子どもと接し、その文化を知ってあげることが大切だと思います。子も、親や周りの大人の文化に接しながら、視野を広げ見聞を深めていくことでしょう。

（畑山篤＝志学塾塾長）

遊具に工夫、大人と昔遊びも

子ども

最近、工

たり、地

えたりす

どもの体

育成にと

みの

ャイ

学院

並区

くの

くる

が、

面積

「L

（ジ

デザ

した

い、

遊ぶ

や壁

り、

体能

を遊

地面

使用

の輪

ル、

区）

年半

「遊

協力

たり

に教

ケー

ようの

の村

す。

ス

教育

子どもの安全科学

11

誰かに伝える習慣を

要

と見詰められる」経験がある子の5割が当てはまります。「車に乗

のではないでしょうか。

つまるところ、子どもの安全は情報によって確保されます。いかに青報を多く集めて整理するか。まず、子どもには「大したことない」と思うことでも必ず誰かに伝える習慣を付けさせてください。そして、そうした情報を地域で集約し、住